

## ～インクルファンドで助成した団体を紹介～ NPO プラス・ド・西東京(西東京市) 音楽と映像で脳に刺激！プラチナ世代の居場所づくり

NPO プラス・ド・西東京では2012年より高齢者の孤立予防を目的に、「プラチナ世代のコミュニティーづくり」を活動の柱に位置付け「歌声喫茶(キーボードの伴奏で20曲ほど歌う。飲み物と手作りケーキを提供。毎月第3金曜日の午後開催)」「名画座(解説付きで、DVDを視聴。飲み物とおやつを提供。毎月第1金曜日の午後開催)」「わが青春のコンサート(昭和歌謡などを聴く、歌う。ドリンクとおつまみを提供。隔月第4火曜日の夜開催)」「ディスコ&ゴーゴー(ディスコ音楽に合わせて自由に踊る。ドリンクとおつまみを提供。年2回開催)」などを開催しています。

2017年までにのべ2900人、実人数350人超との交流を積みあげ、歌いたい、鑑賞したい、聴きたい、体を動かしたいと、様々なニーズに応じてきましたが、初期に私募債を発行して資金調達し導入した音響、映写等の機材が劣化、一部故障し活動に支障をきたすようになりました。18年度にインクルファンドで10万円の助成をいただき、他の助成金と合わせて音響機器を更新することができました。上映中に映像が飛んでしまったり、画面全体が暗く見づらかった「名画座」は音と画質がクリアになり、事業協力者、来場者とも大変喜ばれました。

「わが青春のコンサート」は歌詞をスクリーンに映し出す方法が喜ばれ、参加者がロコミで広がって前年の7割



増しとなりました。「歌声喫茶」は当初の常連参加者の健康状態が悪くなったり、施設に入られたりと状況の変化で、一時参加者が減ってしまいましたが、また新たな参加者ができてきました。酷暑の夏もタクシーで来てくださったり、「大きな声を出してスッキリした。朝は気分があまり良くなかったが、思い切って来てよかった」と声をかけてくださる方、次回を待ち焦がれる方もあり、これらの活動がシニア世代を元気にする効果を実感しています。

今後は参加者からの要望がある「わが青春のコンサート」の毎月開催や「ディスコ&ゴーゴー」の開催数を増やすことを検討すること、状況が変化してくる高齢者に寄り添い、西東京の地域協議会団体につなげるなど、相談機能も果たせるようにスキルアップしていきたいと思っています。

NPO プラス・ド・西東京 理事長 柳瀬麻知子

**NPO プラス・ド・西東京**  
お問合せ: 電話&FAX 042-439-6353  
所在地: 西東京市泉町 3-12-25 パスレル保谷 2F

## サポーター募集中！ あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かなまちをつくらう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営およびインクルファンド助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

<会費> 個人 3,600円/年 団体 10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、お申し込みいただくと300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とします。

(中止のお申し出がない限り、引き落としは継続されます)

★サポーターになるには、下記の申込書をファックスまたは郵送していただくか、WEBページのお申し込みフォームからご登録ください。⇒<https://www.inclusive-gr.com/supporter/>  
郵送先: 〒156-0051 世田谷区宮坂 3-13-13 3F「生活クラブ・東京」内 インクルーシブ事業連合  
ファックス: 03-5426-5203 電話: 03-5426-5207

お名前			
ご住所	〒		
電話番号		メールアドレス	
所属	・生活クラブ生協(組合員コード: )	・助成を受けた団体	
	・運動グループ(団体名: )	・会員・メンバー	
	・その他( )		
申し込み口数	個人( )口	・・・1口	3,600円/年
	団体( )口	・・・1口	10,000円/年

\*ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

# インクルーシブ通信

2019年12月  
VOL. 30



発行: 生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者: 田中のり子 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

## 子育て支援フォーラム 2019 子どもと親のSOSを受け止める

子どもへの虐待に関する悲しい事件が相次いでいます。インクルーシブ事業連合では、10月5日、「子どもと親のSOSを受け止める」をテーマに、子育て支援フォーラムを行いました。社会福祉法人子どもの虐待防止センターの天野智子さんを招き、センターで行っている取り組みについて講演をしていただきました。後半のパネルディスカッションでは、生活クラブ保育園ぽむ・砦、生活クラブ子育て広場ぶらんこ経堂、ACT たすけあいワーカーズ江戸川もも、みかづき子ども食堂の4団体がそれぞれの現場での事例や活動についてディスカッションを行いました。

電話相談員として相談を受けていた天野さんは、電話をかけてくる親の中に自らの被虐待体験を語る人が少なくないと感じました。MCG(母と子の関係を考える会)をスタートしたとのことです。MCGは育児への悩みを抱えたお母さんたちが、普段はなかなか言葉にできない心の中のことを安心して話せる場です。グループで話すことで自分自身を深くみつめ、変われるところ



子どもの虐待防止センター天野さん

は変えていき、変わらないところは認めていけばよいと優しく話す天野さんが印象的でした。

後半はそれぞれの現場での活動をもとにディスカッションを行いました。実際に起こった事例から、どのような対応を行ったか、またそれぞれの課題などを共有することができました。どの団体も子育て世帯に寄り添い、必要なサポートを丁寧に行っているのが印象的でした。また、地域でのネットワークや行政との連携の重要性を感じました。参加者からは「子どもを育てる(守る・救う)にはその親を育てる(守る・救う)ことを丁寧にやっていくことが大切なんだと改めて実感した。」「愛情あふれる人々の心が伝わるパネルディスカッションだった。」などの感想がありました。

子育て世帯が社会からの孤立することを防ぐために、地域でできることや必要な機能を今後も考え、発信していきたいと思っています。



パネルディスカッションの様子

インクルーシブ事業連合事務局 藤田彩加

## 「共に働く」事業所を応援しよう！

就労に困難を抱える人(障がいのある人、高齢者、引きこもっていた若者など)と「共に働く」事業所を応援するスポット寄付を募集中！  
★1口500円からの寄付を募ります。  
★いただいた寄付はインクルーシブ事業連合を通じて登録団体に渡します。共同購入の口座からの引落での寄付は2020年1月25日まで募集します。今回寄付を募集しているのは右の2団体です。

**環境まちづくり NPO エコメッセ**  
店舗を地域のまちづくりの拠点とする取り組みのひとつとして、一般就労が困難な方と一緒に働いています。

**NPO 法人こすもす**  
就労継続支援B型事業所として、一般就労が難しい人や、年齢や体力などの面で働く事が困難な方と働いています。



フォーラム リサイクル事業で地域に働く場をつくらう！

2020年1月18日(土)13:30~16:30 場所:生活クラブ館スペース1・2

「貧困の現場から社会を変える」講師:稲葉剛さん(立教大学大学院特任准教授、つくりい東京ファンド代表理事)

「貧困化社会におけるリサイクルを軸とした社会的企業の可能性」講師:若畑省二さん(企業組合あうん)

お問合せ先:TEL 03-5426-5207 インクルーシブ事業連合事務局(平岡・藤田)

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT) 社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京 CPB(コミュニティパワーバンク) 認定 NPO 法人市民シンクタンクひとまち社/認定 NPO 法人まちぽっと/環境まちづくり NPO エコメッセ

# あなたの住む東京に「まちの縁がわ」をひろげよう

9月7日生活クラブ館地下スペースにて、2019 縁がわフォーラム「あなたの住む東京に『まちの縁がわ』をひろげよう！」が開催され、65人が参加しました。

ワーカーズまちの縁がわは、地域の人々の開かれた居場所である「ほっとスペース」を運営し、人と人がつながり、相談したり、困った時にはたすけあえるよう、安心できる地域づくりを目指し、まちのコーディネイト機能をつくることを目的としています。そして、このような居場所づくりをすすめる背景には、近所の交流が少なくなる高齢世帯の増加、孤立する子育て家庭の増加、公的制度の限界と地域力の低下などの課題があります。

当日は11に増えた縁がわワーカーズが一堂に会



し、活動紹介およびパネルディスカッションが行われました。また、東京都保健福祉局担当部長の中川一典さんからは、地域貢献活動を支援する「東京ホームタウンプロジェクト」等の紹介がありました。

まちのほっとスペースは、ほっと一息つける居場所であり、困りごとが気軽に相談できる場、ちょっとした手助けが頼める場でもあります。ランチの提供をはじめとして、ヨガや手芸、親子カフェなど、それぞれ特色のある企画を行っており、多世代の交流の場となっています。人材育成など事業継続のための課題もありますが、今後も空き家や空き室などを活用しながら、このような場を身近な場所に増やしていくことを目指しています。

ほっとスペースを始めてみたい方、また活用可能な空き家や空き室がある方は、ぜひ下記までご連絡ください。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子

## ご連絡先

生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合  
Tel 03-5426-5207 Fax03-5426-5203

## インフォメーション

ACT 傾聴講座

### 日々の暮らしに傾聴をいかす

相手のところに寄り添う 思いを伝える

なぜか思いが伝わらない、気持ちやすれ違ふ  
そんなことはありませんか?“傾聴”を知って、  
より良い関係を築くチャンスをつかみましょう。

日時:11月21日(木) 12月4日(水) 12月9日(月)  
13:00~16:00(全9時間)

会場:NPO法人アビリティクラブたすけあい 会議室  
中野区本町1-13-18 大新NSビル2F  
(地下鉄中野坂上駅から徒歩8分)

受講料:全9時間一括 ACT 会員 4,000円  
/ACT 非会員 7,000円 欠席による返金はありませ  
ん。初日にお支払いください。

定員:40名(要申込)

締切:2019/11/14(木) 定員になり次第締め切り

講師:特定非営利活動法人「トナリシップ アソシエーション」理事長 後庵 正治さん

お問合せ・お申込み先:

NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)  
Tel 03(5302)0393 Fax 03(5302)0394

インクルーシブ通信 VOL.29 で掲載した「しげんカフェ」の文章を以下のように訂正いたします。

(誤) 現在5人のスタッフが有償ボランティアとして関わっており ⇒ (正) 現在5人のスタッフが関わっており  
関係各位にはご迷惑をおかけし、たいへん申し訳ありませんでした。お詫びして訂正いたします。

共に働くフォーラム 2019

### 「共働」のネットワークをつくる

-ハンディがあっても無くとも共に働く社会を目指して-

日時:2020年1月13日(月・祝) 13:30~16:00

場所:都立多摩図書館 セミナールーム2

(JR 西国分寺駅から徒歩7分)

資料代:500円

1. 就労継続支援 B 型事業所の実践と課題

池田敦子(NPO法人 VIVID)

宮野洋子(企業組合ワーカーズ・コレクティブ 紙ふうせん)

佐久間寛子(NPO法人こすもす)

2. 生協の取り組む農福連携 富澤廉

(生活クラブ農園・あきる野 農場責任者)

3. 生協と連携する環境共生事業「しげんカフェ」

和田安希代(ワーカーズ・コレクティブ スーユンタン)

4. 就労のマッチング事業「よいしごとステーション」

北川裕士(日本労働者協同組合連合会センター事業団)

■共催:東京ワーカーズ・コレクティブ 協同組合

生活クラブ運動グループ・インクルーシブ 事業連合

ワーカーズ・コレクティブ 及び非営利・協同支援センター(WNC)

■主催:とまっと事業体

お問合せ・お申込み先:とまっと事業体

Tel:090-1795-1412 Fax:042-306-2442



## 地域包括支援センターによる地域づくりはどこまで進んでいるか 調査中間報告

ひと・まち社は、介護保険制度創設時から市民団体とともに制度検証のための基礎調査を始め、介護予防・自立支援に関する高齢者実態調査を継続して行ってきました。調査結果から高齢者の自立生活を支えるためには介護予防や自立支援サービスが欠かせず、そのための財源確保と地域を知る市民の参画が重要なことを実感しています。

2015年の介護保険制度の改正で高齢者の自立生活を支えるために地域包括ケアシステムの実現の一つに地域づくりが盛り込まれ、地域包括支援センターはその要となりました。制度横断的なネットワークを構築して地域資源の発掘、市民の地域活動づくりなど多岐にわたる仕事を担うこととなります。そこで、センターによる地域づくりの取り組み状況を知るために、介護予防・日常生活支援総合事業について3年間の継続調査を踏まえ2019年7月から調査を実施しています。

調査は、東京・生活者ネットワークと NPO 法人アビリティクラブたすけあいの協力のもと、都内 26 市 23 区内の地域包括支援センターと 40 歳以上の市民(介護保険第 1 号被保険者と 2 号被保険者)を対象に行い、回答は、地域包括支援センター387 所(約 8

割)から、65 歳以上の第 1 号被保険者からは 316 票、40 歳以上の第 2 号被保険者から 232 票が得られました。

2018 年より自治体と地域包括支援センターは、事業の質の向上と地域包括ケアシステムの強化のために国の指標を使って自己評価を実施しています。しかし、その結果を公表していない自治体がありました。地域づくりは市民の主体的な参画で進める必要があるため、地域包括支援センターの事業評価は、公表することが前提です。現在、調査のまとめに向けて作業を進めていますが、地域包括支援センターの事業評価は第三者性を保つ必要があることと評価結果は全自治体で公表することを盛り込む予定です。

調査報告会は 1 月を予定しています。詳細が決まりましたら、お知らせいたしますので、よろしくをお願いします。

認定 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社  
代表理事 工藤春代

認定 NPO 法人 市民シンクタンクひと・まち社  
新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASKビル 5 階  
Tel 03(3204)4342

## 助け合うってどういうこと?

2019年10月16日生活クラブまち委員長研修



講師の伊是名夏子さん(写真前列中央)は骨の 弱い障害「骨形成不全症」でありながら 4 歳と 2 歳の子育てをこなす。その一方でコラムニストとしても活躍中。子どもたちは車いすに乗るのが大好きで、伊是名さんと 2 人乗り、3 人乗りで移動する。

生まれた時すでに両足の骨が折れていて、オムツを替えるだけでも骨折、もぐらたたきゲームで遊んでいて骨折と、骨折は日常茶飯事。小学校・中学校の 9 年間は、養護学校(現:特別支援学校)に通学。しかし、普通学校に行きたくさんの友だちと授業を受け、時にはのび太くんのように居眠りしてみたい、休み時間や放課後には友だちとおしゃべりしたいという思いを抱き続け、高校進学にあたっては、当時好きだった男の子と一緒に学校に行きたい一心で、歴史ある学校、首里高校を目指しました。階段だらけの校舎でも周りの助けを得ながら高校生活をエンジョイ。そんな伊是名さんから素敵なメッセージをたくさんいただきました。

自分の「生きやすい」が他の人の「生きやすい」になる。…自分のリクエストを言える人は相手のリクエストも聞ける人。自分の希望を伝えることはわがままではなく、アイデアを出し合って調整することが大事。実は、わがまま、ずるいという人もいろいろ我慢していることが多い。それぞれに合った選択肢を用意することはみんなにとっていいこと。

助けられ上手は助け上手…助けてもらった経験があると助けるのも上手になる。障がい者は助けてもらうだけの人ではない。頼られるのは誰にとっても嬉しいことで、助けてもらうことは人と人をつなぐことになる。

自己責任が強く求められる社会は、社会的弱者にとって生きづらい社会です。互いに助けを求めることができる「助け合い」の社会の実態を作っていくことが大切だと感じました。

インクルーシブ事業連合事務局  
平岡晴子



伊是名夏子さんの著書「ママは身長 100 cm」。共同購入(本の花束)でも取り上げられる予定です!